

## 野外ブロイラー農場における大腸菌症に対する エンロフロキサシン製剤投与の効能評価

山藤 功<sup>†</sup> 成瀬弘和 高瀬公三 西 明子 椎木昭任

マルイ農業協同組合 (〒 899-0297 出水市平和町 225)

(2023年3月28日受付・2024年3月4日受理・2024年6月14日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/6/77\\_e69/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/6/77_e69/_article/-char/ja/)

### 要 約

ブロイラー農場において病理解剖所見から大腸菌症と診断された61事例のうち、40事例にエンロフロキサシン製剤を3日間飲水投与、残り21事例には非投与とし、投与前後9日間の斃死淘汰羽数を記録した。斃死淘汰羽数は鶏舎ごとに、診断日の飼養羽数を1万羽とした場合の羽数に換算したのち、エンロフロキサシンの効能評価を試みた。その結果、前期日齢群(7~28日齢)では投与開始2日目から斃死淘汰羽数の減少を認め、後期日齢群(33~38日齢)でも、投与開始2日目から斃死淘汰羽数は減少したが、前期日齢群と比較するとバラつきが大きかった。非投与群(27~38日齢)では診断後の斃死淘汰羽数は増加が続き、その後徐々に減少する傾向を示した。

——キーワード：ブロイラー，大腸菌症，エンロフロキサシン。

-----日獣会誌 77, e69~e74 (2024)